

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100257		
法人名	(株)桜梅桃里		
事業所名	グループホーム和楽の家 上道		
所在地	岡山県岡山市東区才崎260		
自己評価作成日	平成25年1月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390100257&amp;SCD=320">http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390100257&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成26年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①紙パンツ・パットはずしを目指している。その方の生活リズムを把握し、排泄リズムを知り、時間毎に声かけし、トイレ誘導したり、旬の野菜や多くとり入れたメニューや青汁ヨーグルトなど多くの種類の飲み物を用意し水分を多くとっていただいたりして、排便リズムをつくるようにしている。即効性はないが、日々気を付け習慣づけている。</p> <p>②ご家族に報告連絡相談をまめにし、信頼関係を大切にしている。些細な事でも電話・メール・FAX・手紙などでまめに連絡し、ご本人の生活史やご本人・ご家族の要望・思いをお聞きし、情報を職員全員で共有し日々の個別ケアにあたっている。写真も交えた回想法を大切にしている。</p> <p>③欲しい物を買に行く事や行きたい場所・外食など少しでもご要望に添える様な外出支援・地域の行事への参加を行い、社会との繋がり大切にしている。</p> <p>④その方に合った役割を提供し、やりがいや自信を持って生活して頂く。また、自立支援も大切にしている。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業母体とも連携をとりながら、訪問診療(内科・心療内科・歯科)、デイケア利用、訪問リハビリ、口腔ケア、職員としての看護師配置など医療面の手厚い支援とともに、重度者への対応も努力されています。音楽療法・絵手紙などボランティアの協力を得ながら、楽しみの部分も目を向けたケアを実践されています。利用者一人ひとりの思いや意向を把握しケアに活かしています。園児・学童との交流、介護予防術の講演会の開催、地域防災の集いに参加するなど「愛される事業所」を目指して絆作りに取り組んでいます。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にもとずき年間の個人目標を決め、毎月を振り返り反省し、上司が評価する。ケア向上につなげる為、又、自分の思いを上司・他者に伝える為にも続けて取り組みたい	その人らしさへの対応、家族・地域との交流、職員のスキルアップなどを事業所の年度目標に掲げ、「専門書を読む」「まずは挨拶から」など個々の目標をもとに毎月振り返り、評価し実践につなげていく努力をされています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所を散歩、行事に参加、買い物外食などの外出する事で、地域で生活していると感じる機会を多く持つ。施設内での行事に地域の方々をお招きし、交流出来る機会を作っている。AED設置している事も地域の方にお伝えし、必要時使用して頂きたい	幼稚園・小学校との交流、各種行事での行き来、散歩時の挨拶、野菜の差し入れ、近くのコンビニの利用、ボランティア(絵手紙)の受け入れ、会議や講演会への招待など地域とのつきあいを大切にされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	6月、創心会廣田先生をお招きし、いざという時に慌てない知っておきたい介護の知識・日常の介護予防術について講演をしていただき、地域の方々、入居者様、入居者様のご家族、職員で、勉強会を行った。(職員も含め29名の参加者あり)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方、一人でも多く、施設に気軽に来ていただく為にこちらから発信。運営推進会議をより多くの方に参加して頂ける様に奇数月第四火曜日と決め実施した。2~3人いつも来て下さる地域の方がおられる。地域の方のご意見を大切に、また、次につなぎたい。	案内状を送って参加を呼びかけ、家族や地域の方の参加を得て、時には講師を招いて話し合い、そこでの意見を活かすように努めています。行政の参加が得にくいのが悩みの種とのことです。	これからも行政に呼びかけ運営推進会議の重要性について理解を求めて行かれる事を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議・行事などは、地域包括センターの方に必ずご連絡はしている。勉強会・イベントを開く際、講師の紹介をしていただけるかご相談をしている。	定期報告のほか、介護相談員(2ヶ月毎)の受け入れ、会議への参加要請、講師の紹介依頼などで相談し、良好な関係が築けるように努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護度・認知度が進むにつれ身体拘束に結び付く行為をしなければならなくなってきた。その為ご家族・職員としっかり話し合い、一番良い方法を考えた上ご家族了解のもと行う。身体拘束防止委員会を中心に話し合いを常にスタッフ一同、同じ意識の元で毎日のケアにあっている。また年に一度勉強会を開いている。	勉強会で学び、身体拘束防止委員会を中心に身体拘束をしないケアに職員一同努力されています。安全に配慮しつつ検討を重ね、スタッフ間で共有してケアにあたっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、正しく理解し、職員同志、防止する事を毎日のケアで常に意識している。向上会議で職員にて話し合ったり、年一回は勉強会を開いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修などで、名前や制度について聞いたことがある程度で具体的には学べていない。積極的に参加する必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本社役員が中心となり行っている(管理者・ケアマネージャーも参加)。説明を行い不明なことなどは、質問をお聞きし、理解と納得をしていただいけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年間通じての行事(特に家族総会や運営推進会議・面会などで、ご意見・要望をお聞きし、職員に共有し、より要望に添えるよう改善できるよう努めている。	本人との対話をこころがけ、家族総会・運営推進会議・面会時・電話などで意見や要望を聞いています。又、テレビ電話の受診を家族の要望で往診に切り替えるなど運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	働きやすい職場、ケアの向上など毎月の会議にて職員同志、話し合い決定している。現場解決できない問題は、本社へ相談し、改善、解決を図っている。	管理者は話しやすい雰囲気づくりに努め、処遇ノートに目を通して職員の要望など把握するとともに、日常会話や会議で意見や提案を聞き反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員の要望・意見・日頃の思い・悩みなどしっかりと耳を傾ける。必要があれば、本社へ報告・相談しながら、より改善できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の勉強会(認知症について・感染予防・事故防止・人材育成)や施設外では認知症研修・介護技術など職員個々に応じた研修に参加できる様に働きかけている。研修内容について報告書を提出し、職員全員で共有し、ケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修へ参加したり、同法人内での相互訪問などを行うようにしているが、なかなか実行出来ていない為、二か月に一度ある管理者会議で情報共有をしている。他の施設の良いところ等どんどん取り入れていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎日の入居者様との会話、行動、表情の変化に早く気づき、日々の状態を把握し、また、早期対応をしている。個々の生活史を職員間で共有し、尊敬の念を常に持って接するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様の日々の様子をまめにお伝えし、できるだけご家族の要望に沿えるように努め、信頼関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接後、暫定プランを立て、その後、ご本人の状態把握により、要望や、必要な援助を判断し、ご家族の意向を伺いつつ、再プラン作成にあたっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、される側ではなく、一人の人、人生の先輩として敬い、我々が教えていただく気持ちで接し、喜び、悩み、怒り等共に共感しながら日々過ごせるよう努める。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事・運営推進会議・面会など、定期的に施設に足を運んでいただける機会を設けると共に、働きかけを実施している。面会の際には、近況報告を行い、ご家族の思い・ご要望・ご意見を伺い、コミュニケーションを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	「人間関係を変えるな、環境を変えるな」をもとに、ご家族の協力により、外出、外泊支援をお願いしている。又、職員とも外出機会を作るように努めているが思う様に支援できていない。ケアの必要性もご家族にしっかり発信していきたい	友人・知人・弟子などの来所のほか、外出・外泊など家族の協力も得ながら、馴染みの関係継続を支援しています。開所以来、歳月の経過と共に、事業所内に馴染みの関係が築かれ、心強いと話す利用者もおられます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の会話が弾むような環境作り、一人きり孤独にならないような環境作りを、色々な場面において、さりげなくお手伝い出来るよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今まで築き上げた信頼関係を大切に、ご家族様との支援作りに努めている。ご家族様が面会に来て下さった時に写真をお撮りし部屋に飾ったり、ご家族にお渡ししたり、感謝をお伝えしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中から思いをくみ取り、カンファレンス(向上会議)で、職員一同情報を共有し、ご本人の希望・意向の把握できるように努めている。面会時などご家族に、日頃の経過記録を見ていただき、ご本人の真の気持ちを理解していただき、ご本人の思いが実現するよう穏やかで安心出来る様な日々のケアにあたる。	日々の対話や観察、家族からの聞き取り、経過記録、処遇ノートなどを参考に、皆で話し合い共有しながら、一人ひとりの言葉にならない思いを受け止め、暮らし方の希望や意向を把握するように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居いただく際、ご家族に記入していただきたい人生歴や日常の会話などから得た情報をファイルにまとめ、いつでも職員が参考になるようにしている。入居後、その方の会話等から追加情報を得るようにする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的な日常生活の流れは、決まっているが個々のペースを尊重し、ケアプランに沿ったケアに努めている。特に、変更や緊急性のあるものは、介護日誌や処遇ノートにその都度、記入し、毎日、職員が目を通し、情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンス(向上会議)にて、職員全員で意見交換し、入居者様一人一人のモニタリングを実施している。ご家族の要望や思いを面会時や電話連絡時などに伺うようにしている。カンファレンスは、基本的に全員出席とし、情報の共有に努めている。	各種書式がよく整えられており、毎月モニタリングを実施し、スタッフ全員でカンファレンスを行い、本人・家族・医療・関係者それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タイトル(題名)をつけ、日々会話を個別記録に残し、その中からご本人の思いや、意向の変化をさぐり、その都度、話し合い、援助計画の変更をしている。又、ご家族へも思いを伝えていく。個別ケア向上に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズに対して、本人様の気持ちを尊重しつつ、ご家族様のご意見を伺いながら改善、解決を心がけて、より良い生活を送っていただける様に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内では毎月1回、ボランティアにて同地域民生委員の方の絵手紙教室、シルバーリトミック（音楽療法）の開催、楽しいひと時など、心身共に活性化して頂けるようにしている。地域小学校、幼稚園の訪問や行事には、積極的に参加しふれ合いの機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	新たに予防歯科往診が加わり、より充実した口腔ケアが行われるようになった。又、心療内科医のテレビ往診に変わり、月1回往診が加わった。高齢により持病の悪化も増え内科医との密の連携が必要になってきた。	提携医は定期的な往診や24時間のサポートをしており、職員としての看護師の配置もあり、緊急時にはスタッフが同行し、家族の協力も得ながら適切な医療を受けられるように支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異変時は必ず看護師に報告し指示を受ける。看護師2名（各ユニット1名）配置しており、職員の気づきや細かい体調変化をチェックし、必要に応じ、かかりつけ医師に報告・医療との連携に繋げて、早期対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院とは、早期退院、退院後のケアへ繋げられるよう、情報提供書を交換し、情報の共有と異常の早期発見に努めている。できるだけ面会させて頂き、家族との連絡のやり取りをするようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の看取りについて、それに近い方がお一人経験させていただきました。現在終末期に入り、心をこめてチームで支援している。キーパーソン様と中々直接お会いする機会が少ないがために状況や往診時の様子など電話で対応している。管理者・看護師が中心となり、医師・ご家族との連携に努める	看取り介護対応指針を定めており、説明と同意を繰り返し、本人・家族・医療・関係者で話し合い共有しながら、納得が得られた最期に向けてチームで支援にあたっています。利用者同士のあたたかい声かけや見守りが力になっているようです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、対応マニュアル新たに作成し、会議や各自で再確認する。消防の方にご協力して頂き、年2回避難訓練の実施。消火器やAED（施設内にてAED設置した）の使い方を各自再確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	計画的に避難訓練を実施し、改善点など具体的にあげている為、出来る事から改善している。先日初めて「角山防災の集い」という行事に参加させていただきました。防災に関する関係者の方々にお逢いし施設での必要な知識を教えてくださいました。	家族の集まりを利用して訓練を実施したり、今年初めて「地域防災の集い」に参加し、関係者と交流する機会が得られ、今後に向けてつながりを深めていくとのことです。	今後も地域との協力体制と事業母体との協力体制に取り組み、災害対策を進めていかれる事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりのこれまでの人生を受けとめ、会話やケアの言葉が一つにしても安心頂ける様な環境を心がけている。その方を尊重した関わり・声かけを大切に個別ケアを実施している。	家族からの聞き取り・対話・回想法などで背景を知るとともに、入浴時などにふと漏らした本音を書きとめられています。個々のプライバシーや個性を大切に、また尊厳に配慮した丁寧な声かけや対応をこころがけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日のコーヒータ임では入居者様・職員が回想を交え、ゆっくりと会話しながら思いや要望が聞き取れる様にしている。生活援助の中でも一つ一つ声かけ、ご自分の思いを確認しながら自己決定して頂ける様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、一人ひとりのペースに合わせる様に、心がけをし、その時々々の状況で臨機応変に声かけしている。散歩、買物、調理洗濯干し等、職員と共に実施し、個別対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、ご自分で選んだ洋服を着てもらったり、洗面所の前で髪の毛をといたり髭剃りしたりして。訪問美容を2月に一度利用している。ご家族のかたが来られ散髪をされたり、施設内で毛染めをされる方もおられる。外出時、お化粧をされたり、服をきかざったりして頂く。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえ、調理の盛り付け、皮むき、配膳運び、机拭き、後片付け等、リハビリも兼ね個々に合わせて共に行える支援をしている。食事は職員も同じメニューを同じ机でおしゃべりしながら明るい雰囲気での食事を心がけている。味や好みの話題も盛り入れ楽しい会話が出来よう働きかけている。	嗜好・体調などに配慮した形態やメニューで、利用者のできる力を活かしながら三度三度手作りしており、皆でテーブルを囲み、会話しながら食事を楽しんでいます。移動販売のパンや外食・お弁当なども楽しみの一つです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューはバランスを考え、旬の食材を取り入れ、職員が交代で調理している。入居時嗜好調査を行い、入居者様の好き嫌いを把握しながら食べていただけるものを作る。毎日食事摂取、水分量の把握を行い、個々の体調管理に努めている。食事量が少ない時は、高カロリー補助食品やご本人の嗜好品を提供し水分の種類も増やしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き・うがいを行ってもらう様な声かけをし、個々に合わせた仕上げ磨きを行っている。必要な方は、訪問歯科が利用でき、職員も口腔ケアの指導を受けている。週2回義歯洗浄を行い、清潔を保てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を作成し、必要な方には排泄パターンを記入し、細めな声かけでトイレ誘導し、紙オムツやパットが外せる様な取り組みを行っている。それでもやむおえず使用する方は、向上会議で職員で話し合った上決定し、その方が今一番必要な対策をとっている。	オムツやパットの使用を減らすように取り組んでおり、パターンを把握してさりげない声かけや誘導で自立に向けた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、飲むヨーグルト・青汁等の飲料などの水分を多く撮るようにしたり、繊維質の多いバナナ、野菜やきのこ類等を食事に多く取り入れるようにしたり、腹部マッサージをしたり、腸の運動を促すよう心がけている。それでも便が出ない時は、主治医・看護師の指示のもと下剤を服用し調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回、入浴を楽しんで頂ける様、入居者様の希望に沿える心がけ、楽しく入浴して頂けるような会話を心がけている。入浴拒否がある方はタイミングをみて声かけ誘導し、調子が良い時に入浴していただく。	体調や希望を考慮し、同性介助への配慮、拒否者へのタイミングや声かけ、失禁対策など個々にそった支援をこころがけています。入浴中の会話を楽しみ、本音を引き出すように取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	二時間おきの巡回を実施、特に注意が必要な方はセンサーを設置し、事故のないように充分注意を配る。一人一人の日々の睡眠状態を把握し快適に睡眠をとっていただく様な環境を整え、体調・不安等を観察しつつ、休息を取って頂くようにする。救急時の対応マニュアルを作成し、急変時・異変時にも職員が対応出来る様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には、職員2人共に確認。服薬拒否、困難時には飲み込みやすい様、工夫して、飲んで頂く様にする。最後まで飲み込んだ事を確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせ、食事の準備(皮むき・味付け・盛り付け・配膳など)掃除・洗濯(干し・たたみ)等をしていただく。体調や天候をみて散歩、外出などの時間を設ける様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事の計画をたてご家族にも相談しながら外出に努めている。花の水やりや野菜の手入れや収穫、散歩、日光浴・買物、ドライブ、外食、ホーム以外での行事等、出掛ける機会を多く持つようにしたいが、計画通りにいかない事が多く改善が求められる。	散歩や買物、畑や花の手入れなどで日常的に戸外に出かけられるようにしており、各種行事で出かけたり、ドライブや外食など、家族の協力も得ながら、普段は行けないような場所へも出かけられるように支援しています。行先で家族と落ち合い、お花見を楽しんだそうです。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の要望に応じ、欲しい物、必要な物は職員と共に買い物にその度出掛けるようにしている。ご自分で財布を持たれ、出前パン屋さんが週一度来られた時、ご自分で財布を持たれておられる方は、好きな物をご自分で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の要望、不安や家族の方の心配をされている時は、家族の方と相談をしながら、安心して頂ける様な対応・声かけをしている。電話で話をしたり、手紙を書いたりしている。可能な方は、面会のお礼の手紙をご自分で書いて頂き一緒に写真もお送りするようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は、入居者様に季節感を感じていただけるような壁飾り(レクで入居者様と共に作成した物)や大きなカレンダーや日時が分かるような日めくりを目に留まるような見やすい場所に設置している。また、絵手紙・書道・硬筆などの入居者様の作品や楽しかった行事の写真などを飾るようにし、生活空間を大切にしている。	平屋造りの建物は落ち着いた木目調で、写真・作品が展示され、折り紙の花束が色鮮やかに壁を飾り季節を演出しています。テーブル・椅子・ソファなどが点在し、ゆったりと居場所を選んでくつろぐことができる様工夫がされていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールやソファでの座る場所に気を配りトラブルのないような配置に常に心がける。ご自分で自由に居室やホールで過ごしていただくようにするも、あまり居室に居る時間も長くなり過ぎないように(退屈と思われない様に)こまめに訪室し、不安や孤独や寂しい思いにならない様に配慮する。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、家族との写真や思い出の写真、絵、服など居室で目に届く場所へ飾り、その方々に合った安心した居場所作りをしている。面会時にご家族や知人にとった写真を大きく引き伸ばし、額に入れ、目に届く場所(居室)に飾るようにしている。	好みの家具や身の回り品・写真などを持ち込んで、思い思いの配置や飾り付けでベッドの方、布団を敷いて使用している方など本人が居心地よく過ごせるように工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一つ一つ説明しながら理解を得たうえでケアを行う様にしている。また、ご自分で出来る事などの自立支援を第一に考え、意欲が出る様な声かけ・環境などに配慮をしている。安全、自立した生活空間を作っている。		